

学科	理容科	担当教員	宗像								
科目名	関係法規・制度	学 年	2	実施時期	前期・後期						
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15						
教育目標・ねらい	国家試験に合格することを目標に、今まで習得した知識をもとに得点できるよう、実際の国家試験や独自問題を用いて演習を重ねる。苦手意識の高い分野については繰り返し理解を促す講義を取り入れる。										
授業回	学習内容			備 考							
1	関連法規（生衛法） 【到達目標】 生衛法が何を規定しており、どのような制度が用意されているかを説明できる。										
2	関連法規（労働法・日本政策金融公庫法） 【到達目標】 理容師が労働者としてどのように法律に守られているか、また経営者としてどのように労働者を使用するかのイメージをもつことができる。資金調達の際、日本政策金融公庫にはどのような制度が用意されているか説明できる。										
3	関連法規（顧客に関する法律） 【到達目標】 理容師・経営者として関わる顧客に関してどのような法律が用意されているか説明できる。										
4	問題演習1 【到達目標】 理容師免許の問題を中心に、正確な知識をもとに正答を導くことができる。										
5	問題演習2 【到達目標】 理容所開設の問題を中心に、正確な知識をもとに正答を導くことができる。										
6	問題演習3 【到達目標】 行政処分・罰則の問題を中心に、正確な知識をもとに正答を導くことができる。										
7	問題演習4 【到達目標】 総合問題・横断的な問題を中心に、正確な知識をもとに正答を導くことができる。										
8	学科試験										
到達目標	国家試験合格に向けて、理容師法の正確な知識を取得できているかを自ら確認しつつ、弱点を把握し、補強する。足りない知識についてはその都度見返し、自分の知識としていく。知識を用いて的確に問題の意図を掴み、正答する。										
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。										
テキスト	日本理容美容教育センター「関係法規・制度」										

学科	理容科	担当教員	中塚				
科目名	衛生管理（消毒法各論）	学 年	2	実施時期	前期・後期		
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15		
教育目標・ ねらい	消毒法の種類や特徴、消毒に必要な条件、理容所における衛生管理技術の実例に関する知識を身につけること で、理容師として安心、安全かつ衛生的に施術することができる						
授業回	学習内容			備 考			
1	1. 理学的消毒法 【到達目標】 理学的消毒法の主なものの消毒方法や特徴などについて理解し、説明することができるようになる			小テスト実施①			
2	2. 化学的消毒法 P.167～165 【到達目標】 化学的消毒法の主なものの消毒方法や特徴などについて理解し、説明することができるようになる			小テスト実施②			
3	3. すぐれた消毒法とその実施上の注意 【到達目標】 すぐれた消毒法の条件や消毒を行う際の注意事項について理解し、説明することができるようになる。また、消毒法各論の前期部分について、短くまとめることができ、期末試験対策に利用できるようになる			小テスト実施③			
4	前期期末試験						
5	4. 各種消毒薬の概要、器具の使い方、常備しておくとよい消毒薬と希釈液の濃度 【到達目標】 消毒薬使用液の作製方法や器具の使い方などについて理解し、説明することができるようになる			小テスト実施④			
6	5. 消毒薬希釈法 【到達目標】 消毒薬を希釈場合の濃度計算法やよく使用される消毒薬やその希釈液の性状などについて理解し、説明することができるようになる			小テスト実施⑤			
7	6. 理容所における消毒の実際と衛生管理の実践例 【到達目標】 理容所における消毒と清潔法の実際について理解し、説明することができるようになる。また、消毒法各論の後期部分について、短くまとめることができ、期末試験対策に利用できるようになる			小テスト実施⑥			
8	後期期末試験						
9	衛生管理技術のまとめと国家試験対策 【到達目標】 消毒法について短くまとめることができ、国家試験対策に利用できるようになる						
到達目標	理容所における衛生管理技術の実例を学び、具体的な対策を理解することで、卒業後に進む理容業界で即戦力となる知識を習得する						
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・日本理容美容教育センター「衛生管理」 ・配布プリント 						

学科	理容科	担当教員	中塚				
科目名	衛生管理（公衆衛生）	学 年	2	実施時期	前期		
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15		
教育目標・ ねらい	公衆衛生についての知識を身につけることにより、理容師として安心、安全、かつ衛生的に施術することができる						
授業回	学習内容			備 考			
1	1. 公衆衛生の概要 ①公衆衛生の意義と課題 ②公衆衛生の歴史 【到達目標】公衆衛生の意義と公衆衛生が日常生活にどのように結び付くかについて理解し、さらに欧米および我が国において公衆衛生がどのように発展してきたかを説明することができる			小テスト実施①			
2	1. 公衆衛生の概要 ③理容師と公衆衛生 ④保健所と理容業 【到達目標】理容師と公衆衛生は、いつごろから、なぜ、深くかかわりをもつようになったかを理解し、また、保健所の機能、組織、業務などについて学び、保健所が地域の保健衛生行政において、中核的な存在であることについて理解し、説明することができる			小テスト実施②			
3	2. 保健 ①母子保健 【到達目標】保健所の機能、組織、業務などについて学び、保健所が地域の保健衛生行政において、中核的な存在であることについて理解し、説明することができるようになる			小テスト実施③			
4	2. 保健 ②成人・高齢者保健 【到達目標】我が国における平均寿命、生活習慣病対策および健康増進対策について理解し、説明することができる			小テスト実施④			
5	2. 保健 ③生活習慣病 【到達目標】生活習慣病、特にがん、循環器疾患（虚血性心疾患、脳血管疾患、糖尿病、COPD、アルコール）について学習し、これらの生活習慣病について簡単に説明できるようになる			小テスト実施⑤			
6	2. 保健 ④高齢者の保健と福祉 【到達目標】公衆衛生における高齢者保健、特に、高齢者の保健と福祉、加齢に伴う心身機能の低下について理解し、簡単に説明できるようになる			小テスト実施⑥			
7	2. 保健 ⑤精神保健 【到達目標】健康であるということは、身体の健康だけではなく、精神的にも健康でなければならない。公衆衛生における精神保健について理解し、説明できるようになる。						
	学科試験						
到達目標	公衆衛生について学習・理解することにより、事業所の公衆衛生の実践を含め、卒業後に進む理容業界で即戦力となる知識を習得する						
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・日本理容美容教育センター指定教科書 ・配布プリント 						

学科	理容科	担当教員	中塚				
科目名	衛生管理（感染症各論）	学 年	2	実施時期	前期・後期		
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15		
教育目標・ ねらい	代表的な感染症について、病原体、感染源、感染経路、主な症状、予防対策などを理解することで、理容師として安心、安全かつ衛生的に施術することができるようになる。						
授業回	学習内容			備 考			
1	1. 理容業と感染症 2. 主な感染症 ①空気・飛沫を介して感染する感染症 【到達目標】 理容の業務を通じて感染しやすい感染症、特に空気・飛沫を介して感染する感染症について理解し、説明することができるようになる			小テスト実施①			
2	2. 主な感染症 ①空気・飛沫を介して感染する感染症（続き） 【到達目標】 空気・飛沫を介して感染する感染症、特にインフルエンザ、新型コロナ感染症、麻しんについて理解し、説明することができるようになる			小テスト実施②			
3	2. 主な感染症 ②飲食物を介して感染する感染症 【到達目標】 飲食物を介して感染する感染症について理解し、説明することができるようになる。また、感染症各論の前期部分について、短くまとめることができ、期末試験対策に利用できるようになる			小テスト実施③			
4	前期期末試験						
5	2. 主な感染症 ③血液等を介して感染する感染症 【到達目標】 血液等を介して感染する感染症について理解し、説明することができるようになる			小テスト実施④			
6	4. 主な感染症 ④動物・節足動物を介して感染する感染症 3. 具体的な対策の例 【到達目標】 動物・節足動物を介して感染する感染症および具体的な接客時の感染予防策について理解し、説明することができるようになる			小テスト実施⑤			
7	【到達目標】 感染症各論の後期部分について短くまとめることができ、期末試験対策に利用できるようになる			小テスト実施⑥			
8	後期期末試験						
9	感染症のまとめと国家試験対策 【到達目標】 感染症について短くまとめることができ、国家試験対策に利用できるようになる						
到達目標	理容師として必要な感染症に関する知識（具体的な予防策を含む）を身につけることにより、卒業後に進む理容業界で即戦力となる知識を習得する						
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	・日本理容美容教育センター「衛生管理」 ・配布プリント						

学科	理容科	担当教員	齋藤				
科目名	保健（人体）	学 年	2	実施時期	前期		
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15		
教育目標・ ねらい	最終的には国家試験問題を全問正解することが目標であるが、それだけではなく、人体の構造を学ぶことにより理容人として、人間の美と健康に携わる職業であることの自覚を持ってもらう。また、自分の身体の健康や接客時のお客様との会話の中でも常識として理解を深めていただきたい。						
授業回	学習内容			備 考			
8	血液の循環経路 心臓と血管のはたらき 【到達目標】 心臓の構造や血管の構造、循環のしくみやリンパ管系を覚える。						
9	第7章 呼吸器系 【到達目標】 鼻腔～肺の呼吸器の流れや呼吸期間の構造、呼吸法式を覚える。						
10	第8章 消化器系 消化器系のあらまし 【到達目標】 口腔～肛門までの流れや消化器官の構造を覚える。						
11	消化管のはたらき 【到達目標】 消化管のはたらきやの消化管の運動、消化のはたらきを覚える。						
12	まとめ						
13	国家試験対策1						
14	国家試験対策2						
15	学科試験						
到達目標	国家試験に合格できる内容を学習						
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない						
テキスト	日本理容美容教育センター「保健」						

学科	理容科	担当教員	古荘				
科目名	保健（皮膚）	学 年	2	実施時期	前・後期		
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	30		
教育目標・ ねらい	皮膚の構造について理解し、サロンでの施術、お客様への対応に活かせるようにする。						
授業回	学習内容			備 考			
1	表皮の構造について 1						
2	表皮の構造について 2						
3	真皮の構造について						
4	皮下組織について						
5	皮膚付属機関について 1						
6	皮膚付属機関について 2						
7	免疫機能について						
8	皮膚と皮膚付属機関の生理機能						
9	皮膚と皮膚付属機関の保健						
10	皮膚と皮膚付属機関の疾患 1						
11	皮膚と皮膚付属機関の疾患 2						
12	皮膚科学総まとめ						
13	国家試験対策						
14	国家試験対策						
到達目標	皮膚の構造について理解し、理容の業務に差し支えない様にする。						
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	教科書「保健」						

学科	理容科	担当教員	鈴木				
科目名	香粧品化学	学 年	2	実施時期	前期・後期		
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	30		
教育目標・ ねらい	施術で使用する方法だけでなく、成分や関連法規を含めた香粧品の構成を理解する。 皮膚や毛髪の構造を理解する事に作用の内容を発展的に理解する。						
授業回	学習内容			備 考			
1	①香粧品概論 ②法律や規制 【到達目標】 香粧品の一般的な概念と、香粧品に関わる法律について説明できるようになる。						
2	①香粧品の取り扱い ②安全性など 【到達目標】 香粧品の取り扱い方法や安全性の基準について説明できるようになる。						
3	①香粧品の種類、性状 ②皮膚 ③頭皮 【到達目標】 香粧品の剤型や性状の特性、皮膚や頭皮の構造を説明できるようになる。						
4	①水溶性原料 ②油性原料 【到達目標】 香粧品の一般的な原料について配合目的や特徴を説明できるようになる。						
5	①界面活性剤 ②乳化について（実験と連動して説明）③高分子化合物 【到達目標】 香粧品の一般的な原料について配合目的や特徴を説明できるようになる。						
6	前期のまとめ：香粧品の法律・原料・剤型の確認 【到達目標】 香粧品の使用目的や用途により原料から剤型の特徴を説明できるようになる。						
7	①色材 ②香料 【到達目標】 香粧品の一般的な原料について配合目的や特徴を説明できるようになる。						
8	①その他の配合成分 ②ネイル・まつ毛エクステンション用 【到達目標】 香粧品に用いられる製品安定化剤について説明できるようになる。						
9	①皮膚洗浄用香粧品 ②化粧水 【到達目標】 皮膚用基礎香粧品についての特徴や使用用途を説明できるようになる。						
10	③クリーム ④その他の基礎香粧品 【到達目標】 皮膚用基礎香粧品についての特徴や使用用途を説明できるようになる。						

11	<p>①メイクアップ ②芳香製品 【到達目標】 各種香粧品の特徴を理解を深め説明できるようにする。</p>	
12	<p>①頭皮・毛髪用 【到達目標】 染毛剤、パーマ剤を含む頭毛用香粧品の成分、法律や注意事項を説明できるようにする。</p>	
13	<p>まとめ 【到達目標】 様々な種類の香粧品についての知識を増やし、説明できるようにする。</p>	
14	<p>まとめ 【到達目標】 理容師として必要な香粧品に関する知識の確認を行い、正しく説明できるようにする。</p>	
15	学科試験	
到達目標	<p>①香粧品に関する法律について知ったうえでの施術を可能にする。 ②香粧品に配合されている成分に対し配合目的を明確に説明可能にする。 ③頭皮・毛髪用の香粧品については、特徴・使用法・関連法規を説明可能にする。</p>	
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない	
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・日本理容美容教育センター「香粧品化学」 ・まとめと概要のプリント（毎授業時に配布） 	

学科	理容科	担当教員	仲矢				
科目名	文化論	学 年	2	実施時期	前期・後期		
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	14		
教育目標・ ねらい	理容師・美容師の仕事の中でお客様とのコンセンサスを得たうえで、技術を提供することは大変重要である。この文化論にはコンセンサスを得るためのヒントや、創造の幅を広げるエッセンスが多く存在していることから、基本を知り、経験の中で理解を含めさせれるようにしていく。						
授業回	学習内容			備 考			
1	礼装の種類/和装の礼装・洋装の礼装について						
2	ファッション文化史西洋編/古代エジプト～16世紀まで						
3	17世紀～19世紀までのファッション文化について						
	学科試験						
4	1910年代以降のファッション文化について						
5	グループワークによる国家試験を想定した問題作成						
6	グループワークにて作成した問題集を模擬試験及び解答						
	学科試験						
到達目標	自分たちで国家試験を想定して問題を作成することで国家試験にむけ理解を深める						
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	理容文化論（日本理容美容教育センター指定教科書）						

学科	理容科	担当教員	大草				
科目名	文化論 (ファッショント理容色彩学)	学年	2	実施時期	前期・後期		
授業形態	講義・演習	必修・選択の別	必修	授業時間(単位)	16		
教育目標・ねらい	ファッショント基礎、歴史を学ぶことにより、理容美容とファッショントがどう関係しており、どうのよに活かせるのかを学ぶ。						
授業回	学習内容			備考			
1	アパレル企業の実態 →各セクションの役割や自信のリアルな仕事内容を紹介						
2	ブランドの構築の仕方 →どうやってブランドを構築していくのか						
3	コーディネイトの基本 →色の合わせ方、シルエットの考え方						
4	ファッショント史 →2024年に学んだカラー史を元に少し掘り下げたファッショントを学ぶ						
5	トレンドを学ぶ →2025年AWの色/キーワード 注目の企業/ブランドを紹介						
6・7	トレンドを踏まえて作品づくり						
8	総復習						
到達目標	美翔祭に向けコーディネイトを自ずから提案できる。						
評価方法	授業態度、作品提出、リアクションペーパーにより評価。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。						
テキスト	各授業枚にテキスト用意。プロジェクター使用。						

学科	理容科	担当教員	畠中				
科目名	運営管理	学 年	2	実施時期	前期・後期		
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15		
教育目標・ ねらい	仮想店舗の創作を体験したり、「運営管理」のテキストで理論を習得したりすることで、将来、サロン内外で管理業務的職務の遂行が必要になった場合に対応できるようになる。						
授業回	学習内容			備 考			
1	<p>「運営管理」テキストを活用し、経営基本と「財務・税金の知識」の習得を行う。 【到達目標】 貸借対照表と損益計算書の見方が分かるようになる。また、税の種類や納税の基礎知識を説明できるようになる。</p>						
2	<p>「運営管理」テキストを活用し、「労働基準法」「労働安全衛生法」の理解 【到達目標】 労働基準法や給与について、労働安全衛生法などの概要を説明できるようになる。</p>						
3	<p>テキストを活用し、「社会保険知識」の習得（前編） 【到達目標】 社会保険の種類とその中身を説明できるようになる。</p>						
4	<p>テキストを活用し、「社会保険知識」の習得（後編） 【到達目標】 社会保険の種類とその中身を説明できるようになる。</p>						
5	<p>「運営管理」テキストを活用し、と国家資格学科試験に対応できるための能力を養いながら、1年生のグループワークで実行した「価値の知識」の習得を目指す。 【到達目標】 理容業のサービスの価値の中身を説明できるようになる。</p>						
6	<p>「運営管理」テキストを活用し、「マーケティングの視点」の習得 【到達目標】 前の授業の「価値」の伝える方法論や、実行する人の管理とはなにか、を説明できるようになる。</p>						
7	<p>テキストを活用し、財務、税務、労基、社保の復習と全体の小テスト 【到達目標】 サロン運営はどのようにするのかの概略を説明できるようになる。</p>						
8	学科試験						
到達目標	サロン運営の基礎知識を学び、将来的に、店舗オーナーや管理者になったときに役に立つ知識を仮想体験すると同時に、国家試験科目「運営管理」に対応するものとする。						
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	日本理容美容教育センター「運営管理」						

学科	理容科	担当教員	古市・古荘		
科目名	理容技術理論	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	90
教育目標・ねらい	理容技術理論の基礎とともに、技術内容ともあわせて理解することが出来るようとする。				
授業時間数	学習内容			備 考	
1~4	個性心理学	個性心理学を通じて個性分析をし自分自身の特徴を知る。また様々なタイプの個性を理解することで、理容師として必要な多様性を深めらる。 【到達目標】 自分自身の個人分析について説明することができる。			
5・6	パーマネントセット	(1) パーマネントウェービング (2) コールド二浴式パーマネントウェーブの一例 (3) アイアニング 【到達目標】 パーマネントを施術するうえで必要な薬剤の知識、種類、効果効能などを説明できる			
7・8	ヘアカラーリング	(1) ヘアカラーリング技術のプロセス (2) ヘアカラーリングの一例 【到達目標】 ヘアカラーリングを施術するうえで必要な薬剤の知識、種類、効果効能などを説明できる			
9~12	シェービング	(1) メンズフェイスシェービング (2) メンズネックシェービング (3) グルーミング (4) レディースシェービング 【到達目標】 シェービングを安全に正しく施術できるために必要な理論及び技法を説明できる			
13・14	理容エステティック	(1) スキンケア (2) フェイシャルケア (3) ハンドケア 【到達目標】 スキンケア、フェイシャルケア、ハンドケアの理論及び技法を説明することができる			
15~17	理容用具	シザース、レザー、クリッパー、コーム、ブラシ、ヘアアイロン、ヘアドライヤー 【到達目標】 理容用具を安全に正しく使用していく為に必要な知識と取扱い方について説明できる			

授業時間数	学習内容		備 考
18~20	ヘアカッティング	スタンダードヘアのスタイル別カットシステム 【到達目標】スタンダードヘアのスタイル別の特徴を説明することができる	
21~29	国家試験対策授業	理容技術理論1・理容技術理論2 【到達目標】理容技術理論にある各章の重要なポイントを説明することができる	
30	学期末試験	学科試験	
到達目標	理容技術は、人を対象として直接皮膚に触れたり、刃物を使うことから、どの技術も練習が必要であり、何より安全性が必要とされる。そのために技術理論の意義を十分理解し、理容師としての基礎的知識を習得する。		
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。		
テキスト	「理容技術理論1・2」（日本理容美容教育センター指定教科書）		
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる理容師養成の観点から授業を行う		

学科	理容科	担当教員	古市・古荘				
科目名	理容実習 (シェービング)	学 年	2	実施時期	前期		
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間	6		
教育目標・ ねらい	レザーを使いこなせる						
授業回	学習内容			備 考			
1~3 (6h)	顔面技術復習、耳剃りなど特殊シェービング						
到達目標	ネックシェービング、顔面シェービングがサロンレベルまで到達する						
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない						
テキスト	「理容技術理論1・2」「技術テキスト」（日本理容美容教育センター指定教科書）						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる理容師養成の観点から授業を行う						

学科	理容科	担当教員	古市・古荘				
科目名	理容実習 (ミディアム)	学 年	2	実施時期	前期		
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間	24		
教育目標・ねらい	フォーマルカット ミディアム分髪スタイルを理解し、カット・ブローが出来るようになる。						
授業回	学習内容			備 考			
1~2 (4h)	指で挟んでのグラデーションによるプレカット						
3 (6h)	プレカット 実技試験						
4~5 (10h)	プレブロー & セット						
6 (12h)	プレブロー & セット 実技試験						
7~8 (16h)	ミディアムロングのフォーマルカット						
9 (18h)	フォーマルカット 実技試験						
10~11 (22h)	ミディアムスタイル ブロー & セット						
12 (24h)	ミディアムスタイル ブロー & セット 実技試験						
到達目標	レディースウェイッグのフォーマルカット & ブローを時間内でそれぞれ作成する。						
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない						
テキスト	「理容技術理論1・2」「技術テキスト」(日本理容美容教育センター指定教科書)						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目:各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる理容師養成の観点から授業を行う						

学科	理容科	担当教員	古市・古荘				
科目名	理容実習 (ワインディング)	学 年	2	実施時期	前期		
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間	10		
教育目標・ ねらい	ワインディングの基礎としてCライン巻きを中心に修得。その後は「パーマ」に向け、必要な手技や手順、理論などを総合的に修得する						
授業回	学習内容			備 考			
1~3 (6h)	デザイン巻き 3 パターン (オールパーパス、レンガ、縦巻き)			2年次			
4~5 (4h)	3人1組でのモデル実習 人頭パーマ手順						
到達目標	Cライン巻きはブロッキング5分、巻き25分で、ある程度以上のレベルで完成。デザイン巻き 3 種類修得、ウイッグと人間のパーマの違いを理解、パーマ手順修得						
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数 (全体の4/5) を下回る学生は受験することができない						
テキスト	「理容技術理論 1・2」「技術テキスト」(日本理容美容教育センター指定教科書)						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる理容師養成の観点から授業を行う						

学科	理容科	担当教員	古市・古荘				
科目名	理容実習 (ロングレイヤー)	学 年	2	実施時期	前期		
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間	24		
教育目標・ねらい	完成スタイルから作成方法を考え、組み立てる力を身につける						
授業回	学習内容			備 考			
1 (2h)	基礎練習 ロングヘアのブロー、スタイル作成の手順確認			No.4 ウイッグ			
2 (4h)	展開図の作成方法、アウトライン作成、ブロー						
3~4 (8h)	シルエットの考え方、グラデーション、レイヤー、セイムなどの違いと、スタイルからどのカットラインかを判断する方法						
5~6 (12h)	量感調整、質感調整とモデルカルテ記載方法						
7~8 (16h)	ブロー、スタイリング剤とスタイリング方法、仕上げまで。						
9~12 (24h)	ロングレイヤー実技試験			No.5 ウイッグ			
到達目標	スタイルの展開図の書き方、考え方の基礎ができるようになる。						
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない						
テキスト	ヘアスタイル設計資料						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる理容師養成の観点から授業を行う						

学科	理容科	担当教員	古市・古荘				
科目名	理容実習 (ミディアムレイヤー)	学 年	2	実施時期	前期		
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間	11		
教育目標・ ねらい	ヘアスタイル設計・展開図作成授業2回目。それぞれの理解を深める						
授業回	学習内容			備 考			
1 (2h)	スタイル提示、ブロッキング、アウトライン作成			No.4 ウィッグ			
2 (4h)	シルエット作成						
3 (6h)	量感調整・質感調整						
4 (8h)	プロースタイリング・展開図完成						
5~6 (11h)	ミディアムレイヤー実技試験			No.5 ウィッグ			
到達目標	展開図が作成できる、展開図通りにスタイル作成ができる						
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない						
テキスト	「理容技術理論1・2」「技術テキスト」(日本理容美容教育センター指定教科書)						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる理容師養成の観点から授業を行う						

学科	理容科	担当教員	古市・古荘				
科目名	理容実習 (マッシュスタイル)	学 年	2	実施時期	前期		
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間	11		
教育目標・ ねらい	ヘアスタイル設計・展開図作成の理解（横スライスのエレベーションスタイル）						
授業回	学習内容			備 考			
1 (2h)	スタイル写真提示 ブロッキング・アウトライン作成・展開図作成			No.4 ウイッグ			
2 (4h)	シルエット（グラデーション）作成・展開図作成						
3 (6h)	量感調整・質感調整・展開図作成						
4 (8h)	ブロー・セット、スタイル完成 展開図完成						
5~6 (11h)	マッシュスタイル実技試験			No.5 ウイッグ			
到達目標	各自で考えてスタイル完成、展開図作成						
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない						
テキスト	「理容技術理論1・2」「技術テキスト」（日本理容美容教育センター指定教科書）						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる理容師養成の観点から授業を行う						

学科	理容科	担当教員	古市・古荘				
科目名	理容実習 (レディースショート)	学 年	2	実施時期	前期		
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間	30		
教育目標・ ねらい	ショートスタイルなので、メンズとレディースとの「顔とヘアスタイルのバランスの違い」を中心に理解する。女性っぽさ、男性っぽさの理解をする。						
授業回	学習内容			備 考			
1 (2h)	ショートグラデーションスタイル スタイル提示、展開図作成、ベースカット						
2 (4h)	ベースカット続き、量感・質感調整						
3 (6h)	ブロー、スタイリング						
4 (8h)	ショートグラデーションを、バランスを変えて中性的にする 量感・質感調整、ブロー、スタイリング						
5 (10h)	ショートレイヤースタイル スタイル提示、展開図作成、ベースカット						
6 (12h)	量感・質感調整・ブロー、スタイリング						
7 (14h)	バランスを変えて中性的にする 量感・質感調整・ブロー、スタイリング						
8~9 (18h)	セクションカットとツーブロック理解 刈上げないツーブロック、刈上げるツーブロック						
10~11 (22h)	ツーブロック実技試験						
12~13 (26h)	レディースショートスタイル フリースタイル風						
14~15 (30h)	レディースフリースタイル 実技試験						
到達目標	レディーススタイル2スタイル×2パターン作成、展開図を自分で考えて書けるようになる。ヘアスタイルのバランスを理解する。						
評価方法	ポートフォリオで評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない						
テキスト	「理容技術理論1・2」「技術テキスト」（日本理容美容教育センター指定教科書）						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる理容師養成の観点から授業を行う						

学科	理容科	担当教員	古市・古荘				
科目名	理容実習 (フェードスタイル)	学 年	2	実施時期	前期		
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間	9		
教育目標・ ねらい	クリッパー、ぼかしを多用したベリーショートスタイルの原理の理解と実践						
授業回	学習内容			備 考			
1 (2h)	長めスキンフェードスタイルのヘアスタイル設計 事前に展開図を記入し、その後作成。			No.4 ウイッグ			
2 (4h)	長めスキンフェードスタイル ブロー&セット 短めスキンフェードスタイルのヘアスタイル設計						
3 (6h)	短めスキンフェードスタイルのカット & ブロー & スタイリング						
4~5 (9h)	スキンフェードスタイル 実技試験			No.5 ウイッグ			
到達目標	ベリーショートスタイル2スタイル完成						
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない						
テキスト	「理容技術理論1・2」「技術テキスト」(日本理容美容教育センター指定教科書)						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目:各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる理容師養成の観点から授業を行う						

学科	理容科	担当教員	古市・古荘				
科目名	理容実習 (資格試験課題)	学 年	2	実施時期	後期		
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間	70		
教育目標・ねらい	理容師資格試験実技の合格に加え、衛生的・安全・正確・効率的な技術を理解し、それをサロンで活かせるようにする。						
授業回	学習内容			備 考			
1~2 (4h)	No.1~3までのウイッグの仕込み、プレカット、プレブロー						
3~4 (8h)	No.1ウイッグ使用 技術面を中心とした指導						
5~6 (12h)	No.4~6ウイッグの仕込み						
7~9 (18h)	No.2ウイッグ使用 進行面の練習、各技術でタイム入れ						
10~12 (24h)	No.3ウイッグ使用 国家試験と同じ進行で実施、採点し、どこが減点されるのかを意識する						
13~15 (30h)	No.4ウイッグ使用 各場所ごとに細かい復習						
16~18 (36h)	No.5ウイッグ使用 第1回模擬試験						
19~21 (42h)	No.6ウイッグ使用 第2回模擬試験						
22~24 (48h)	No.7ウイッグ使用 第3回模擬試験						
25~28 (56h)	No.8ウイッグ使用 卒業実技試験						
29~32 (64h)	No.9ウイッグ使用 国家試験前竿集模擬試験						
33~35 (70h)	No.10ウイッグ使用 国家試験前の最終準備						
到達目標	卒業実技試験合格、国家試験無事通貨						
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない						
テキスト	「理容技術理論1・2」「技術テキスト」(日本理容美容教育センター指定教科書)						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる理容師養成の観点から授業を行う						

学科	理容科	担当教員	古市・古荘				
科目名	理容実習 スタイリストコース（コース選択）	学 年	2	実施時期	前期・後期		
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	120		
教育目標・ ねらい	ヘアデザインに必要な応用する力と想像力を高めるために必要な基礎的知識、技能を修得する。 またヘアスタイルを立体的に観測し、ヘアデザインの構造と技法を読み解く能力を活かし、ヘアスタイルをカタチにできる						
授業回	学習内容			備 考			
1~10	マッシュウルフ（メンズスタイル） 【到達目標】カットラインを繋げずにスタイルを作成するディスコネクションテクニックにてスタイルを作成することができるよう、ヘアカッティング理論・技術ならびにブローセット理論・技術を習得する。						
11~20	ツーブロックスタイル（メンズスタイル） 【到達目標】グラデーションカットの特徴であるウェイトをコントロールし、バランスのとれたスタイルを表現できるようになる為に、ヘアカッティング理論・技術ならびにブローセット理論・技術を習得する。						
21~30	ジェットモヒカン（メンズスタイル） 【到達目標】刈上げのウェイトをコントロールし、バランスのとれたスタイルを表現できるようになる為に、ヘアカッティング理論・技術ならびにブローセット理論・技術を習得する。						
31~40	クラシカルバックバリエーション 【到達目標】クラシカルバックスタイルの特徴である美しい調和のとれたスクエア シルエットを表現できるようになる為に、ヘアカット技術ならびに多彩なヘアブラシによるブローセット技術を習得する。						
41~50	フェードスタイル 【到達目標】フェードカットスタイルの特徴である美しい刈り上げの色彩と、シルエットを表現できるようになる為に、ヘアカッティング理論とスタンダードカット技術、ならびにブローセット理論・技術の習得。						
51~60	クリエイティブスタイル 【到達目標】ヘアスタイルにおけるトレンドポジションを理解し、そのイメージに合わせたヘアスタイルをデザインするためにアウトラインやテクスチャー、ディテールカットの理論および技術を習得する。						
到達目標	ヘアスタイルを立体的に観測し、ヘアデザインの構造と技法を読み解く能力を活かし、ヘアスタイルをカタチにできる						
評価方法	作品のポートフォリオとスタイルの展開図をまとめたものを作成し、ファイルに取りまとめたものを評価とする。なお、所定授業時間数(全体の4/5)を下回る学生は評価を受けることができない						
テキスト	教科書：理容技術理論 1.2 公益社団法人日本理容理教育センター指定教科書						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる理容師養成の観点から授業を行う						

学科	理容科	担当教員	古市・古荘				
科目名	理容実習 シェステコース（コース選択）	学 年	2	実施時期	前期・後期		
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	120		
教育目標・ ねらい	女性に施術することを目的としたシエステ（＝シェービングエステ）の基礎的知識、技能を修得する						
授業回	学習内容			備 考			
1～20	ALEXクレンジングマイスター 【到達目標】各種化粧品の効果や成分、どんな人に会うのかを説明することができる。またカウンセリングを通じてモデルにあった化粧品を提案し、クレンジングからレディースシェービングまで施術をすることができる。						
21～40	ヘットスパ 【到達目標】トリートメントを施しながら頭のツボを的確に指圧し、お客様に快感とリラクゼーション効果を与えることができる。						
41～60	美剃師検定初級 【到達目標】美剃師検定初級 合格を目指し、レディースシェービングとフェイシャルエステを組み合わせ、お客様に心地よさと美しさを与え、素肌を美肌にするための知識と技術を習得する。						
到達目標	肌質やスキントラブルを分析し、シエステを駆使しながらモデルの肌を美しくすることができる。また、ネイルやメイクなども加えることにより、トータルビューティーまで発展させた立案・提案ができる						
評価方法	ALEXクレンジングマイスター及び美剃師検定初級の検定試験に合格すること。 なお、所定授業時間数(全体の4/5)を下回る学生は評価を受けることができない						
テキスト	ALEXクレンジングマイスター教科書、美剃師検定 教科書						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる理容師養成の観点から授業を行う						

学科	理容科	担当教員	古市・古荘				
科目名	理容実習 (実務実習)	学 年	2	実施時期	後期		
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	45		
教育目標・ねらい	① 業界理解を深める為、実際の現場で業務の流れを学ぶ ② 接客・接遇の実際を体験させ、職場経験を通してその基本を修得させるとともに心構えを確立させる						
授業回	学習内容			備 考			
1~8回	実務実習 【到達目標】 サロン実習を通して、実務に従事する自己の未来像と技術者としての資質を鍛磨し、業界の求める人材としての決意と誇りを新たにする						
到達目標	学内で学んだ知識と技術を活かし、現場で「お客様」にはならず、どんな役割でもきちんとこなし、スタッフに愛され、重宝される存在として、存在価値を認めてもらえる人間となる						
評価方法	実習日誌により評価。なお、所定授業時間数(全体の4/5)を下回る学生は評価を受けることができない						
テキスト	実習日誌（配布）						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる理容師養成の観点から授業を行う						

学科	理容科	担当教員	大草				
科目名	理容美術（デッサン）	学 年	2	実施時期	前期		
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	14		
教育目標・ ねらい	頭部の形、細部の形を捉える						
授業回	学習内容			備 考			
1	授業の狙いについての説明、次回以降の説明、ウォーミングアップとしてのドローイング(頭部の解剖的構造の捉え方、書き方)			任意のデッサン用具 を用意すること (色もつけて良い)			
2・3	任意の写真をもとに頭部のデッサン 1日目			同上			
4・5	任意の写真をもとに頭部のデッサン 2日目						
6・7	任意の写真をもとに頭部のデッサン 3日目 + 講評						
到達目標	頭部の構造の理解と大きな構造に伴った細部の表現						
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。						
テキスト	必要に応じて配布						

学科	理容科	担当教員	古荘				
科目名	理容美術（理容フォト）	学 年	2	実施時期	前期		
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	16		
教育目標・ ねらい	通常のカメラでは撮影が難しいヘア、メイク、ネイルなどの撮影術を学び、自身が作成した作品を残せるようにする。						
授業回	学習内容			備 考			
1	カメラ基礎① なぜスマートフォンではヘアスタイル、メイク、ネイルの撮影が難しいのか 一眼レフカメラ基礎（取り扱い方、構え方）						
2	カメラ基礎② カメラの機能を理解する（フォーカス、シャッタースピード、絞り）						
3	カメラ基礎③ カメラの機能を理解する（ISO感度、色調）						
4	撮影実習① 撮影基礎 人間モデルの基本的な撮影方法とカメラの設定						
5	撮影実習② ストロボを使用した人物撮影 基本的なストロボ設営パターンで、モデルの全身撮影			作品提出			
6	撮影実習③ ストロボを使用した人物撮影 アップでの撮影に特化したストロボ設営パターンで、モデルの顔のアップを撮影			作品提出			
7	撮影実習④ 人物撮影 美翔祭モデルを使用した、モデルのAfter撮影。						
8	撮影実習④ 人物撮影 美翔祭モデルを使用した、モデルのAfter撮影。			作品提出			
到達目標	作品作りと撮影を行う事で、卒業後も実際にサロンで活用できる事を目標とする。						
評価方法	授業態度、作品提出により評価。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。						
テキスト	オリジナルテキスト配布						

学科	理容科	担当教員	八木				
科目名	表現技術	学 年	2	実施時期	前期		
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	30		
教育目標・ ねらい	ビジネスの基本と一般常識、文章読解力、文書作成能力、グラフ読解や計算力などを身につける。検定合格のみならず、どんな社会状況になっても生き抜ける「人となり」を作り、必ず役立つ常識・教養・コミュニケーション能力・人間力を磨く。スムーズに就職活動・社会人生活を送れる基盤を身につける。						
授業回	学習内容			備 考			
1	「オリエンテーション」「挨拶・第一印象」「ビジネス検定3級とは」「働くということ・自律と自立」「接遇やビジネスマナーの基本」「敬語」「敬語小テスト実施」						
2	「キャリアの考え方」「会社の基本とルール」「8つの意識①」「ケース問題の練習と解き方のコツ」「ビジネス略語の説明・暗記・小テスト実施」						
3	「8つの意識②」「コミュニケーションの基本①」「ビジネス用語①」「新聞の見方」「新聞記事問題練習」「小テスト実施」「練習問題/過去問題」						
4	「WHAT'S NEW? 今日のニュース」「身だしなみ・職場でのルール・コミュニケーションの基本②」「練習問題/過去問題」「小テスト実施」						
5	「WHAT'S NEW? 今日のニュース」「ビジネス用語②」「ビジネス話し方・敬語の使い方・聞き方の基本」「練習問題/過去問題」「小テスト実施」						
6	「WHAT'S NEW? 今日のニュース」「ビジネス用語③」「指示・報告・連絡・相談」「練習問題/過去問題」「小テスト実施」						
7	「WHAT'S NEW? 今日のニュース」「来客応対・面談・名刺交換などのポイント」「練習問題/過去問題」「ケース問題練習」「小テスト実施」						
8,9	「WHAT'S NEW? 今日のニュース」「社内文書・社外文書・5W2Hや決まり事」「練習問題/過去問題」「ビジネス用語④」						
10,11	「WHAT'S NEW? 今日のニュース」「社外文書手続き・規則・郵便関係」「過去問題」「文書関係練習問題」「ビジネス用語⑤」						
12,13	「WHAT'S NEW? 今日のニュース」「仕事への取り組み方・(非)定型業務・パソコン・個人情報・Eメールとその使い方」「グラフ・表問題練習」「電話応対と実践」						
14	期末テスト実施(模擬試験を兼ねる)「日本経済・経済環境の変化」ビジネス用語まとめプリント①						
15	期末テスト(模擬試験)の解説。ビジネス用語まとめプリント②追加の過去問題実施と回答解説③総まとめ						
到達目標	社会人2年目くらい迄のビジネス系知識、就職活動や職場での仕事に直結して活かせるビジネスマナーや教養、コミュニケーション能力を獲得。B検3級に合格。						
評価方法	各期の学科試験、小テスト(学科試験80%、小テスト20%)、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、定授業時数(全体の2/3)を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト						

学科	理容科	担当教員	古市・古荘		
科目名	ビジネスマインド	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ねらい	社会人・職業人として、組織の中で自分が振る舞うビジネスマナーを正しく理解し行動変容を行う。 加えて、自身の課題に向き合う課題発見能力や問題解決能力を養い、 <u>自律した思考と行動の実践。</u>				
授業回					備 考
1	LESSON6 ビジネスパーソンとしてのマナー（復習） 「6-1 時間のマナー、6-2 仕事上のコミュニケーション、6-3 PDCA」 【到達目標】職場での円滑な関係性を築くための基本マナーの習得。				ビジネス マナーテキスト p 51~54
2	LESSON2 身だしなみ+立ち居振る舞い（復習） 「2-1 身だしなみ、2-2 立ち居振る舞い」 【到達目標】『品性』のある身のこなしを学び、実践する。				ビジネス マナーテキスト p 10~15
3	LESSON3 言葉遣い① 「1-2 OK行動、3-1 敬語、3-2 敬語のテクニック、3-3 気 になる日本語、3-4 よく使う接客用語」 【到達目標】職業人としての言葉の使い方を学び、表現できる。				ビジネス マナーテキスト p 16~24
4	LESSON3 言葉遣い② 「1-2 OK行動、3-1 敬語、3-2 敬語のテクニック、3-3 気 になる日本語、3-4 よく使う接客用語」 【到達目標】職業人としての言葉の使い方を学び、表現できる。				ビジネス マナーテキスト p 16~24
5	LESSON1 ビジネスパーソンとは① 「1-4働く心構え」入社直前編 【到達目標】『9つの意識』を理解し、働く上で必要なマインドとコンピテンシーを具体的に言語化し、正しい価値観・職業観を学び、就職に備える				オリジナル教材 Powerpoint KJ法ワークショップ
6	LESSON1 ビジネスパーソンとは② 「1-4働く心構え」入社直前編 【到達目標】『9つの意識』を理解し、働く上で必要なマインドとコンピテンシーを具体的に言語化し、正しい価値観・職業観を学び、就職に備える				オリジナル教材 Powerpoint KJ法ワークショップ
7	LESSON1 ビジネスパーソンとは③ 「1-4働く心構え」入社直前編 【到達目標】『9つの意識』を理解し、働く上で必要なマインドとコンピテンシーを具体的に言語化し、正しい価値観・職業観を学び、就職に備える				プレゼンテーション
8	クラス目標・個人目標振り返り				クラスミーティング
到達目標	社会人として自分の立ち位置や直面する状況を理解し、適切な対応をとることができる。 このことにより組織の一員として認められるようになる。				
評価方法	個人目標振り返りによる自己評価と、それに基づく担任面談の結果による。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	ビジネスマナーテキスト				

学科	理容科	担当教員	古市・古荘		
科目名	ビジネスマインド（就職指導）	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	30
教育目標・ねらい	理容師としてのキャリアを早期に考える事で学ぶ目的が明確化し、自身の希望サロンへの就職というゴールに向けて計画を立て行動していくことを学ぶ				
授業回	学習内容				
1～7	〈サロン説明会〉 様々な業態の理容サロンを招き、各サロンの特徴を知る。このことを通して理容サロンの幅広い業態ならびに理容業界の理解を深める。				
8～15	〈就職指導〉 ・履歴書の書き方 ・就職内定までの計画の立案と実行と修正 ・内定のお礼状の書き方				
到達目標	理容師としてのキャリアプランから逆算した就職活動(サロン見学、体験入店)を行い、就職先 サロンを確定することができる				
評価方法	課題提出のサロンレポートにて評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	「サロンレポート1・2」				

学科	理容科	担当教員	立花				
科目名	高度総合理容技術理論 (毛髪化学)	学 年	2	実施時期	前期・後期		
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15		
教育目標・ ねらい	現場で必要な知識と技術を実習を通して学ぶ						
授業回	学習内容			備 考			
1	髪の生える仕組みを理解 頭皮所見の仕方 ハゲ診断			3コマ			
2	ウェーブ理論と実習			4コマ			
3	カラー理論 ブリーチ実習			4コマ			
4	カラー実秋 アイモデルでお互いを染める			4コマ			
到達目標	頭皮所見からカラー技術を習得する						
評価方法	医薬部外品を理解し、安全に取り扱えるかを確認する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。						
テキスト	(株)ミューズ研究所作成テキスト						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員は20年以上の化粧品製造会社での実務歴を有し、サロンスタッフ(特にインターン)が施術する際に極めて重要な毛髪に関する実践的知識を伝える						

学科	理容科	担当教員	鈴木		
科目名	高度総合理容技術実習 (香粧品の製法と実験)	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	6
教育目標・ ねらい	理容師としての基礎知識（香粧品化学と連動）の集積の為、各製剤の特徴や作用の仕組みや処方の構成を理解する事を目的とする。				
授業回	学習内容				備 考
1	①基礎香粧品に関する講義 ②化粧水・洗顔フォームの試作 【到達目標】 各原料の役割と特徴を説明可能にする（香粧品化学と連動）				
2	①シャンプーについてのステップアップ講義 ②洗剤の違いによる性能比較のシャンプー試作 【到達目標】 各原料の役割と特徴を説明可能にする（香粧品化学と連動）				
到達目標	①各香粧品の内容物の成り立ちや使用目的を把握し説明可能にする。 ②香粧品に配合されている成分に対し配合目的を明確に説明可能にする。 ③各製剤の配合物の種類や量による性能の差異を香粧品化学の講義と連動し説明可能にする。				
評価方法	・各期実験レポート（80点満点）、及び筆記小テスト（20点満点）で評価する。なお所定授業時間数（全体の2/3）を下回る学生は受験する事ができない。				
テキスト	香粧品化学教科書 授業毎にプリント（処方）配布				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員は35年以上の化粧品製造会社の技術職勤務経験を踏まえ、実験を主体に、サロン現場で必要となる化学知識の習得を目的とした授業を行う				

学科	理容科	担当教員	古市・古荘					
科目名	高度総合理容技術実習	学 年	2	実施時期	前期・後期			
授業形態	演習・実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	174			
教育目標・ねらい	身に付けた理容技術の基礎的知識、技能をより実践的な場で学習することにより、ビューティークリエイターとして必要な応用力と想像力を高める。							
授業回	学習内容			備 考				
1~51	美翔祭 【到達目標】学園祭にて、お客様への最高のサービスを提供できるよう、今までの学習成果を発揮する							
52~64	匠すと 【到達目標】校内コンテストにて、自分の得意な競技に出場し、今までの学習成果を発揮する							
65~87	メーカーのインストラクターから、ヘアカラーリングやカットの技術、及び必要な知識を実習を伴いながら実践的に学ぶ。				企業連携			
到達目標	理想の理容師像に向かって、自ら必要な能力（知識、技能、人間力）を向上する為に、自分で計画を立てて学習していくことができる。							
評価方法	課題提出にて評価する。							
テキスト								
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる理容師養成の観点から授業を行う							